

茨城農業を応援します！

令和2年12月1日発行（毎月1回1日発行）第72巻第12号

# 農業いはらき

2020  
12

表紙のひと

神生潤一さん

石岡市

【特集】

農業と福祉がつながって  
地域を元気に！

新たな輝きを創る

PRESENT  
毎月抽選で当たる！

県産農産物3名様  
クオカード4名様

(P75)



※写真はイメージです

# 働く喜びを通じた福祉の向上を

茨城県保健福祉部 障害福祉課 内田裕子

## 農作業体験会や工賃の補助制度を活用

の拡大、ひいては、働く喜びを通じた福祉の向上につながっていくことが期待されます。

### 農作業体験会や工賃の補助制度を活用

おりまます。また、これがきっかけとなり、その後も継続して事業所に農作業を委託するようになつた例も増えていきます。

昨年度はネギの出荷、ベビーリーの袋詰めやコマツナ苗の定植等の一〇件でこの制度が利用されております。また、これがきっかけとなります。また、これがきっかけとなります。

茨城県では、障害者就労施設で働く障害者の工賃向上や施設外就労の場の拡大の一環として、農福連携を進めているところです。

### 高単価の施設外就労を増やすために

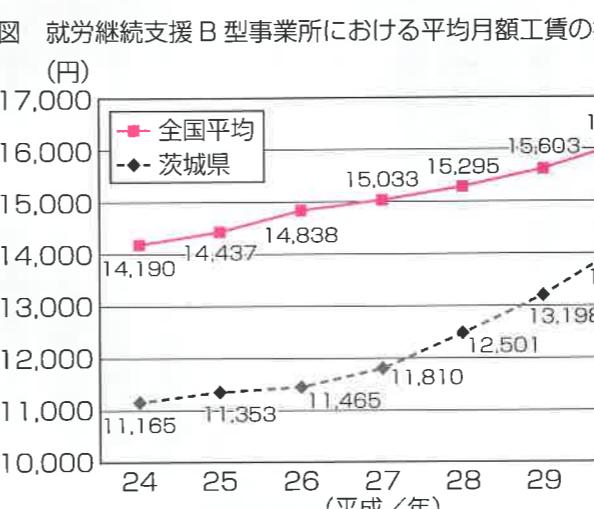
県内の就労継続支援B型事業所（※1）で働く障害者の工賃は月平均一万四一四四円（平成三〇年）で、年々上がっていますが、全国平均の一万六一一八円を大きく下回り、全国四四位の水準です（図）。

単価の安い施設内での内職作業や自主製品の製造・販売が多いことが要因と考えられ、農作業のよ

うなより高単価の施設外就労の機会を増やすことができれば、障害者の工賃向上とともに、就労の場

に、令和元年度から農福連携アドバイザーを配置し、就労継

続支援事業所と農家とのマッチングを強化しているところです。



また、農福連携に興味はあるが、農作業経験がなく不安がある事業所に対して農作業体験会等を実施しており、参加した事業所から良い評価を頂いております。

さらに、受入れ農家等への支援策として、作業開始初期二〇日間までの利用者への工賃を最大一〇万円ま

向を持つ障害者施設が少ない状況にあることが分かりました。農福連携には興味はあるが、農作業経験がなく、農家の方々の期待に応えらないという不安が原因のようです。そうした不安を少しでも払拭するために、当センターでは農業体験会を開始しています。

二〇一八年度から二年間、二八施設一二名に、草刈りや収穫、出荷調製作業を体験して頂きました（小美玉・つくば・水戸市で実施）。こうした体験会の実施、農福連携アドバイザーの設置などの取り組みにより、昨年度は前年度の倍以上の一〇六件、八八一七〇〇〇円の業務の受注を頂きました（図）。

受注した施設の方々からも、工賃面、障害者の精神安定面からも好評を頂いております。

当センターでは、こうした課題に丁寧に対応し、知見を蓄積し、農家と障害者施設の方々双方にメリットのあるマッチングを推し進めていきたいと考えています。

## 農家と障害者施設双方にメリットのあるマッチング

茨城県共同受発注センター

山口健俊

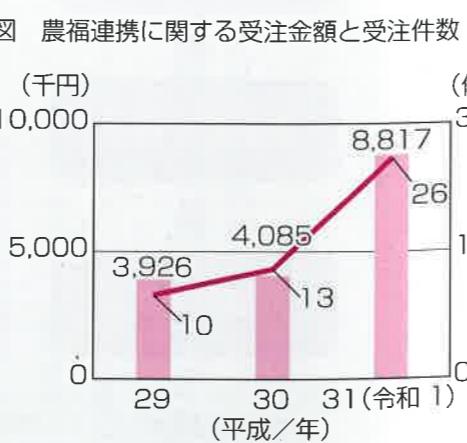
茨城県共同受発注センターは、茨城県から委託を受け、障害者の就労訓練のための案件獲得、案件を通じた障害者の社会参加と地域

ところが、実際にマッチングを始めるに、農家の方々からの依頼に対して、農福連携に取り組む意

当センターでは、多様な障害者の就労訓練のニーズに応えるため、簡易加工等の内職業務の他、清掃・草刈り等の施設外業務など、多岐に渡る業務の受注に努めています。数年前から、作業委託という形での農福連携のニーズも高まってきました。そのため、本格的に農福連携のマッチングに取り組んでいます。

### 連携が進みつつある中での課題

このように、農福連携は進みつつあります。委託する作業の種



類や契約、作業時間や天候の考慮、作業者の体調管理、農家と障害者施設の方々とのコミュニケーションなど、多くの課題も顕在化していました。

当センターでは、こうした課題に丁寧に対応し、知見を蓄積し、農家と障害者施設の方々双方にメ

